## 〇 本校の概要

- \* 学校規模(児童数626名、通常学級数20、通級指導学級3(言語2、弱視1)、特別支援教室1(拠点校)、教員39名) \* 特色ある教育活動:〇大田区学習効果測定を分析して作成した「授業改善推進ブラン」に基づき、授業改善を行い、問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、児童の基礎的・基本的学力の向上を推進している。 〇1年生、2年生の学校探検や1年生・6年生の交流を図る活動を実施し、児童相互のよりよい、問題[関係をはぐむとともに自主性を培っている。 〇併設の「弱視通級指導学級」「言語障害通級指導学級」「特別支援学級(サポートルーム)」との連携や学校特別支援員の活用、個別指導計画・個別支援計画の活用を通し、特別支援教育を推進している。

プラ									計加	人数	コメント
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外 国の方々とのコミュニケーション能力の育 成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4		4: 8 0%				0	
ン 1	きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対	減等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、	1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		J	以上			A	8	
来		「おおたのものづくり」を生かした体験活動 や理数授業等を実施する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		3:					
会		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I IT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活 用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。	4	4 学校評価(保護者)アン ケート 「子どもは、学校生活を 楽しんでいる。」の肯定 的な回答	, 5% 以上		○タブレット端末が、全児童に配布、電子黒板が全教室に設置され、どの学年もICT機器を活用した授業に、積極的に取り組んだ。	長		○タブレットの活用が積極的になされている。授業への取りが れ方にも工夫されている。 ○いつのぞいてもほとんどの子が楽しそうに過ごしている。 ○にてのメリットを活かし、子供たちがより高いレベルでコミュ ニケーション能力を発揮すること等により、学校生活が充実 業しめるよう取組を進めてほしい。 ○共通テストの科目に情報が追加され情報への手がかかりとしてタブレット教育は必要なことだと思う。オンライン授業がいつ行われても良いように旧で活用しての教育推進校として実技指導をどんどん取り組んでほしい。 ○この点が高いことはとても良いことだと思います。
創造			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。	- - -		2:	4	○東京都のコーディネーショントレー ニング推進校として、教員・児童の実 技研修や計画的に児童への指導を			
に		他者の人権を尊重する人権教育の推進を 目指し、人権教育資料等を活用した授業を 実施する。	3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	4		7 0% 以上		技術修や計画的に児童への指導を 行った。 ●ICTを活用した、授業の工夫改善を			
き		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体 計画を作成し、計画に基づいた体育指導	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	3				継続して行っていく必要がある。			
子供		や「一校一取組」運動や「一学級一実践」 運動を実践する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。	- 3		1: 7 0%					
の 育 成		タブレットを活用した授業を通して、児童の 情報活用能力の育成に取り組む。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3		未満			D		
	め、確かな学 力を定着させ ます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一 人ひとりの学習のつまずきや学習方法に	1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。	4	学校評価(保護者)アンケート ケート 「子どもは、学校の授業で力がついている。」 の「よくあてはまる」の 回答	4:	3				
		ついて、指導する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。	4		5% 以上		○ステップ学習のチェックシートは、タ ブレット端末を活用し、保護者に学習	タ B C	4	
プラン		算数・数学到達度をステップ学習チェック シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。	3		3:		状況がリアルタイムで確認できるよう にした。		_	ことは、学習に遅れてしまう子が少なくなると思うので、一人 人の学力向上に繋がっている。 〇目に見える形で学力が身に付くような授業などの工夫により、学力の定着が図れればよいと思う。 〇通常の授業での補習をタブレットドリルでチェックできるの は良いことだが、保護者に確認されるのを嫌がる子もいる。
2		学習補助員等による算数・数学・英語の補	1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。	1		0% 以上		○大田区学習効果測定の結果を受け、学習カルテの作成や面談を通して、児童への指導を行った。		4	
カ		習を実施する。 	2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		2:		○算数少人数担当と学級担任が連 携し、算数補習に積極的に取り組ま せるようにした。			
の向上		授業改善推進プランを、授業に生かす。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3		5%以上		●昨年度より、「授業改善プランを授業に活かす」の取組の観点を3点に 絞った。さらに、個別最適化した指導			護者専用で確認できる方法もあると良いと思うので、面談は 大事。 -
		児童が積極的に活動し、「わかった、できた」と	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。	1		1: 3 5%		を図っていく。	D		
_		いう実感がもてる授業改善に取り組む。	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	4		未満					
	子とや感感る自ををど希た: とり自、なと他尊育、望豊 とり自、なと他尊育、望豊 もの己自どもの重成来にかい 人義定有高、命るるへち心! の感 用め 心なの を	小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校 のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	学校評価(児童)アン ケート 「自分のよいところを 知っている」の肯定的 な回答	80% 以上			A 4		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。	3				〇小中連携では「あいさつを自分か			
プラ		行う等道徳指導充実のための取組を行う。	2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	3		3: 70% 以上		ら進んで行う」を目標に取り組んでいる。 ○学校生活調査の結果をもとに、個			○学校全体としての情報共有に努力されている。子供へのフケート、直接の聞き取りがきちんとなされている。 ○まだまだ自分に自信のない子がたくさんいるので、長所やその子にしかできないことなどを見つけていただき、自信をもって生きていけるように沢山豊めてあげてほしい。 ○自己肯定感の向上を計るために何が必要なのか、改めて教育の原点に立ち戻って検討していいのではないか。 ○登下校であいさつも含めてきちんとしてくれているが、道路やお店での態度とかも伝えてほしい。道路の真ん中で集まったり、店の中に入ってくるようなことがある。 ○良く行われていると思います。表面化しにくい問題行動など、引き続き注意深く願います。
3		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の 結果よりストレス症状のみられる児童・生 徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3				別に関き取りを行ったり、場合によっては管理職による面談を行ったり、組織的に対応している。また、毎週、生活指導夕会時には、学校全体で情報	В	4	
豊		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ の未然防止、早期発見等のための取組を	1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	1		2:	3	共有を図っている。 〇いじめ、問題行動、不登校対応の	O C C		
心		実施する。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に	4		以上		研修、「子供の心サポート月間」での 集中した指導、校内委員会での対応 協議など、計画的・組織的に対応して いる。			
育		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・ 生徒に関するケース会議等を実施する。	対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事業に対してあまり会議を実施しなかつ	4		1: 60% 未満		●継続して、内部組織の機能を確実 に活かしつつ、外部機関との連携を			
		工匠に関する/ 八五郎寺と大地する。	±- 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組 織的な対応をしなかった。					円滑に行うなど、支援体制の充実を 図っていく。			
		授業や児童との具体的なかかわりを通して、児 童の自己肯定感を高めるための取り組みをす る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3							
プ	- 10	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。			4: 80% 以上		○5, 10月の「早寝・早起き・朝ごは		Δ - 7	
٧	健康増進を図る意識の	通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし い生活習慣についての意識啓発を行う。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート 「進んで体を動かして いる」の肯定的な回答	ν <sub>1</sub>		ん月間」では、記録カードを活用し、 正しい生活習慣が身に付くような指 導を行った。	Α	A 7	○校庭が使用できない中で、屋上を利用している点が良い。 ○食育については、各学年に合ったやり方が廊下にも掲示されていてよい。 ○改築工事で校庭が使えないが、子供たちは、先生と一緒に 工夫をして、体を動かす努力をしていると思う。環境を嘆く言 業を開いたことがない。前向きで素晴らしい。 ○引き続き校庭が使えない状況が続いが、新たな施策(ボッチャ・ボルタ)ング)を積極的に導入し、体力向上に資する取 総を推進していただきたい。 ○偏か多々校庭や公園での体力を使う機会が無い今だからこそ習慣になる何かが必要になってきていると思う。 ○児童の体力低下がさきやかれる中、このアンケート結果は頼もしいです。
体		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3		70% 以上		○食育は、高学年の水産業の学習など、教科と関連させたり、食べ物の大切さに気付かせ、残さず食べるように	B 1	1	
進め		体育的行事、部活動、休み時間など様々	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	2		2: 60% 以上	4	意識させたりした。 ○校庭が無い状況の中、屋上での鉄 棒設置、七中校庭の利用、動画によ			
<u>+</u> اح		な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		1:		る教室での体育朝会など、少しでも 運動習慣を身に付けられるように工 夫をした。			
		体育の授業改善や施設の使い方を工夫して、 体力向上に取り組む	4:学級担任全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	4		60% 未満		●限られた教育環境の中で、積極的 に工夫を重ね、体力向上を図ってい く。			
プ	学校生活を送るために、	授業公開日の授業評価を、その後の授業	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	2	学校評価(保護者)アンケート「教師は、学力を身につけさせるために指象の工夫をしい指。」の「よくあてはまる」の項目の割合	4: 5					○さまざまな研修内容を共有し、情報の共有の仕方も工夫されている(職員を会等の活用が良い) ○先生方は、様々に工夫をされて、サポートの方々と連携を取りながら特別対応が必要な児童にも手を打ち、限られた時間の中で工夫してくださっていると思う。 ○個別対応の場合でもサポート体制を整えること等により、専員に適度な負担がかかかないよう取組を進めていただきたい。 ○児童に入りての接た方、指導力が日々更新され、先生方の取組には頭が下がります。 ○教師間の良いアイディアの共有のしくみがさらに深まるとよいです。
ラン		改善に生かす。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	3		5 5% 以上		○○IT延修 職員力会等までEI	B 3 L し C 2		
m+		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を 実施しOJTを充実させる。	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3		3:	3	○OJT研修、職員夕会等を活用し、 ICT機器の活用方法や授業実践例の 紹介、取組の成果報告を行ってい る。			
カあ		各種研究発表会等の研究・研修の成果	1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	3		0% 以上		○緊急で、児童の対応が必要な場合、臨時の校内委員会を行い、管理 職やが旧担任、特別支援コーディ		3	
教育		を、自身の授業改善に生かす。 	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。			2: 4 5%		ネーターが連携し、対応について話し 合った。		2	
環境		校内委員会等を確実に実施し、学校にお ける特別支援教育を推進する。	3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。	4		以上		●登校支援が必要な児童、学習課題 のある児童、リモート授業対応等で、 話し合いの開始・終了時間を守ること が難しかった。			
づくり		「東三スタンダード」を校内共通の学習ルールとして徹底し、学習規律を定着さ	1:実施しなかった。 4:9割の教員ができた。 3:7割の教員ができた。	2		4 5%					
		せ、授業の開始終了時刻を守る。 教育目標・学校経営方針・学校評価等の	2:6割の教員ができた。 1:6割未満であった。 4:月1回以上更新した。			未満 4:					
	地域が担う 役割などを明	教育日保・子校経営力訓・子校計画等が 基本情報、児童・生徒の活動情報等をホー ムページ等で公開及び更新することによ り、積極的に情報を発信する。	3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	2	学校評価(保護者)アン ケート 「学校と保護者・地域 は、連携をとって教育 活動でなっている」項 目の「よくあてはまる」 の割合	5 5% 以上	1		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2	
な6		地域教育連絡協議会において、児童・生徒 の変容等の具体的な資料を作成して、評	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。	3		3:		○「情報モラル講習」「命についての			○情報の発信は迅速に正確にということで難しい。親も働いいるので工夫や改善があれば、安心が増す。 ○学校が地域と連携をとってださっているので、活動がス ムーズである。もっと周知をして、情報を発信していかなければならないと感じる。 ○情報発信については、PTAとも連携をして、保護者と学校 地域との距離をより身近なものにしていきたいので協力をお 願いしたい。 ○コロナの影響で地域のコミュニケーションがうまくとれていいと思っています。これから通常に戻れるように地域からもす ボートしていきたい。
と校	に開かれた	価に必要な学校の情報を適切に提供し、 適正な評価を受けるよう努める。	2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。			5 0% 以上		講演会」「コオーディネーショントレーニング講演会」「第三いきいき活動」 「夏の映画上映」など、行った。図書館見学や生活科・社会科見学も実施		3	
に家: 進庭:	を目指しま す。また、相	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践 する。	3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		2:		できた。 ●学校評価アンケートでは、「学校か			
め・ る地	互の連携を 深め、子ども	学校公開等でセーフティ教室や薬物乱用 防止教室を行い、インターネットによる犯罪 の対案ともまたを除いするものの数をを行	4:全ての学年で実施した。 3:4つ以上の学年で実施した。	3		4 5% 以上		らの情報をもっと知らせてほしい」という内容の意見が複数あった。コロナ禍の学校行事の実施や情報発信について、積極的に工夫・改善を行って		2	○努力されていると思うのに、意外に低い評価。自信をもって 進めていただけたらと思います。 ○第三いきいき活動では、子供たちの成長、自立に少しでも
育かし	を育てる仕組 みを作りま す。	の被害や非行を防止するための啓発を行う。	2:2つ以上の学年で実施した。         1:実施しなかった。         4:学期に2~3回行った。			1:		いく。		-	役に立てるように工夫しながら続けている。1月28日に行われたおもちつきも「初の食べないおもちつき」ですが、もち米、らおもちになる過程を目で楽しめれば良いと考えています。
体と		保護者・地域と連携した学習を推進する。	3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		4 5% 未満			D	1	
-			・・人にというないフトゥ	1							1